小学校教師の経験学習を促すリフレクションの事例的研究
―教師の授業力量のプロセスから―

学校マネジメントプログラム
齋藤　弘幸

1. 問題と目的

校内研究が、授業公開と研究協議会の取組だけとなっており、校内研究の目的である授業改善や授業力量の形成が図られていない可能性がある。

そこで、教師の自律的な学びの為に経験学習（コルブ、1984）を促すリフレクションシートを作成し、校内研究の学びを日々の授業実践に生かすことのできるマネジメントをする。経験学習のプロセスを授業力量から質的に分析し、リフレクションシートの効果の実証とM小教師の授業改善が図られることを目的とする。

2. 研究方法

（1）研究デザイン

図１に示すように、研究授業の単元が終了後、リフレクションシートを経験学習のプロセス（内省的観察・抽象的概念化・能動的実験）に沿って記述する。次に、教職経験の近い同僚でRCG（リフレクションキャリアグループ）を構成し、授業者はリフレクションシートをクラウド上で配信する。RCGの同僚教師は、付箋機能を活用し、リフレクションシートに対するフィードバックを送ることで共同的な学びを促す。

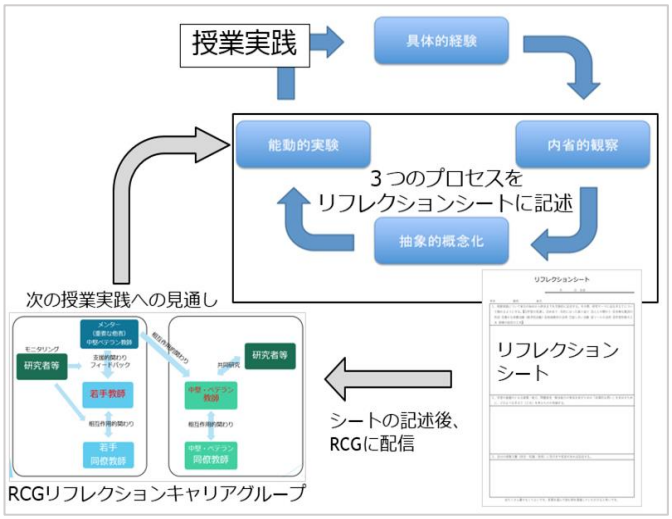

図１　経験学習モデルにおける研究デザイン

（2）研究対象

教職経験１６年教諭

3．評価方法

佐藤(2008)質的データ分析法を援用し、リフレクションシートの帰納的、演繹的コーディングから関連構造図を作成し、リフレクションシートの再文脈化から分析をする。

4．結果

教職１６年の教諭は、図２にあるように、リフレクションシートの記述を通して、経験学習の過程を授業力量からリフレクションしていることが分析できた。

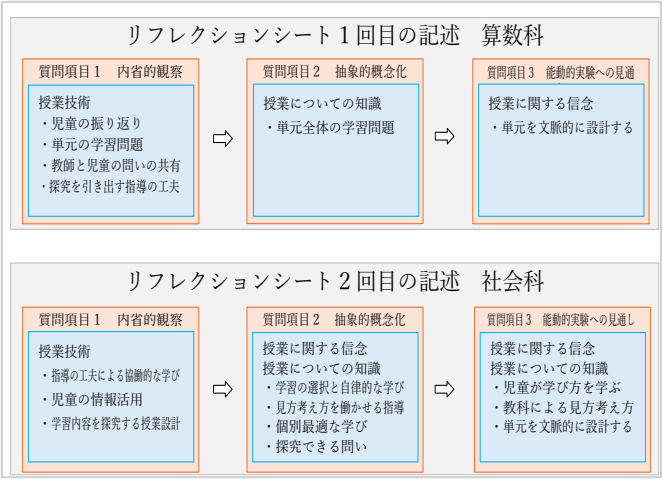

図２　教職１６年教諭リフレクションシート関連構造図

5．考察

教職１６年の教諭を事例に考察すると、キャリア意識と自分に力をつけたいという信念（思い）を原動力に経験学習を循環させていた。また、授業に関する信念（授業観）をもって授業を構想し実践していることが明らかになった。A教諭はリフレクションシートを効果的に活用し、自律的に学んでいると考えられる。

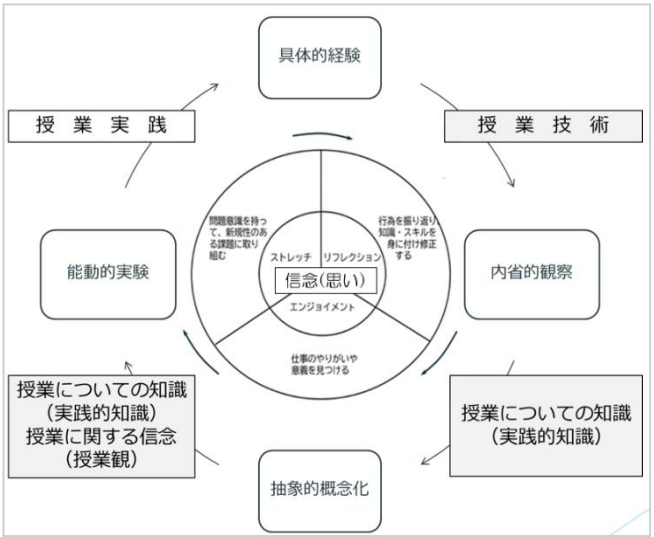

図３　シートの記述による授業力量からのリフレクション

RCG は、同僚教師からの精神支援のフィードバックには、一定の効果が見られたが、一方向の発信になってしまい、対話的な相互作用は生まれなかった。